

→ few 少ない
彼は。

He has few friends.

彼には友達が少ない。

理由

Yesterday, I went to the shopping mall near

my home with my family. When I bought

a few books and CDs in there, the clerk said to me,

"Congratulations! You are lucky! You can buy another book

or CD you prefer for free as an our event's present." I felt happy when I heard the voice.

△X
~'sは 人間や動物のみ。

⇒ a present of our event

でもさらに -s をつけるほうがふつうのようである。

§ 14 -s[-s']で所有格を作れる語の範囲

(1) -s で所有格を作れる名詞は、主として人間《まれにその他の動物》を表す語である。無生物を表す名詞に -s をつけることは、原則としてできない。

a man's legs [正] a chair's legs [誤]
a lion's share [正] ([イソップ物語の]ライオンの分けまえ; うまい汁)

(2) 無生物でも次の場合には -s をとることができる。

- ① 擬人化または習慣的用法: the **sun's** rays (日の光), a **needle's** eye (針の目), etc.
- ② 時間・距離・重量・金額に関する語: **today's** paper (きょうの新聞), at a **stone's** throw (石を投げてとどく程度のところに), a **shilling's** worth of tobacco (1 シリング分のタバコ), etc.
- ③ end, sake などを含む慣用句: at one's **wit's** [wits'] end (途方にくれて), for **mercy's** sake (後生だから), etc.

◎ 1. 詩などの文学作品や新聞などでは、諸種の必要上、以上のほかにも、-s で所有格を作ることがしばしばある。最近では、しかし、それだけにとどまらず、一般にも the book's cover (本の表紙), the train's arrival (列車の到着), the table's corner (テーブルの^{かど}角), science's influence (科学の影響^カ力) など、無生物に -s をつけた所有格が増加してきている。

2. ②の場合にはかなり広く -s が行われているが、①、③の場合は型の定まった言い方にかぎると思うのが安全である。作文などで、われわれが勝手に類推して -s を用いるのは危険である。

3. 時間・距離などに関する語がそのあとの名詞を修飾するとき、必ず -s が用いられるというわけではない。a *three miles'* drive (3 マイルのドライブ) のほか、a *three miles* drive, a *three-mile* drive ともいう。(§ 7 参照)

§ 15 of を用いた所有格

所有格の意味を表すのに「of + 名詞」がよく用いられる。ことに無生物を表す名詞では、§14の場合以外にはまずこれを用いなければならない。しかし、無生物でなくても、of は頻繁に用いられる。

the legs **of a chair** [正] the legs **of a man** [正]
the father **of the boy** = the **boy's** father

《注意》 ほかに、名詞を形容詞に用いて (p.19, ⑨) 所有格とほぼ同じ意味になることがあるから、たとえば「教会の屋根」というには、次の3つの言い方が可能である。the roof **of the church**; the *church's* roof; the *church* roof. なお、所有格ではないが、the key **to** the door (ドアの鍵), the belt **to** the dress (その服のベルト) のように、to で所有格と同等の意味を表せる言い方もある。